

## 2016年度 センター試験 地理B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	Aのスマトラ島南部にはスンダ海溝があるため、圧倒的に地震の多い①が該当する。Bは古期造山帯地域であるため、地震の少ない④となる。Cは南東部に集中していることから、③のハワイ島であると判断する。Dはサンアンドレアス断層に沿った形で地震が発生している②と判断できる。
	問2	火山灰は、噴火から長期間経過すると肥沃になるが、噴火直後はそうではないため、③が解答となる。
	問3	Hは●部分がアラビア半島に隣接する砂漠となっているため、●周辺で植生が見られない②が該当する。
	問4	Jはスイスのインターラーケンに隣接するトゥーン湖。アルプス山脈の山岳氷河によって形成された氷河湖である。Kは北海道の洞爺湖で、典型的なカルデラ湖である。Lはニュージーランドのワイカラモアーナ湖(覚える必要はない)である。
	問5	赤道がアマゾン川に沿っていること、エクアドルを通ることを覚えていれば解答に近づける。7月は北半球側に南東貿易風が強まるため、7月の風向はWとなる。降水量は赤道を境に分かれているので、北半球の夏である7月は南米北部で降水の多いYであるとわかる。サバナ気候の雨季の仕組みを理解できているかどうか問われる問題。
	問6	エジプトは国土のほとんどが砂漠気候のため、ナイル川以外に水源がほとんどない。そのため水資源賦存量の割合が非常に高い①と③が解答の候補となる。国土のほとんどが世界最大のデルタで形成されていて、モンスーン、サイクロンで降水量が非常に多いバングラデシュが③と判断し、エジプトは①となる。
第2問	問1	③のウはシアトル、トゥールーズともに自動車工業ではなく航空機工業の発展した都市であるため、誤り。①のアについてはピッツバーグ、バーミンガム、ルール工業地域、シロンスク炭田など、名だたる炭田地帯である。②のイはヒューストン、ミドルスブラなど石油化学工業の発展した都市である。④のエはサンノゼ、ボストン、パリ、ロンドンと先端技術産業の発展する都市である。
	問2	ビール工業は製品単価に対して重量が大きく、輸送費がかかるために、大都市近郊に立地する。
	問3	世界の工場で、CO <sub>2</sub> を大量に排出する石炭を使用している中国が世界最大となっているキがCO <sub>2</sub> 排出量とわかる。残るカとクについては、どちらも先進国のみとなっているので迷いそうなところであるが、日本が産業用ロボットの稼働で世界一であることを知っていれば判断できる。
	問4	日本と比較して1人あたり工業付加価値額が高い①はスイスとわかる。逆に、低いと思われる中国、メキシコは③と④のいずれかであると考えられるため、残る②が韓国であると判断する。
	問5	日本をはじめとして、いずれに対しても貿易赤字となっているPはアメリカであるとわかる。次に、アメリカとの貿易額が非常に大きいQが中国であるとわかる。
	問6	①は、重化学工業の発展はまだ進んでいないため、誤り。②のベンチャービジネスの集積は問1でも出題されたサンノゼやボストンなどの先進国の大都市で集積するため、誤り。③は輸入代替型から輸出指向型への転換が正しく、この文だと逆であるため、誤り。
第3問	問1	まず、1人あたりGDPから、高い①をイギリス、低い④はナイジェリアと判断する。②と③は1人あたりGDPはほぼ同じであるが、双方の20年間の上昇率は③の方が高いので、そのことから③がマレーシア、②がアルゼンチンであると判断できる。ラテンアメリカの都市人口率は古くから高いこともおさえておきたい。
	問2	②のニースはコートダジュールに属する海浜リゾート地であるため、誤り。③はパナマ運河はカリブ海と太平洋を結ぶため、誤り。地中海と紅海を結ぶのはスエズ運河である。④については、カナダの首都はオタワであるため、誤り。①のターチンは中国の東北地方に位置する、同国最大の油田を持つ都市である。
	問3	地図は愛知県一宮市(愛知県で名古屋市に次ぐ人口規模)である。町の中心部で低位が目立つのは農業・林業就業者割合である。中心部と郊外部で差が大きいアは人口密度、高位地域が広く分散しているイは老年人口割合であると判断できる。
	問4	散村を形成する目的の1つとして大規模農地経営があるため、誤り。
	問5	北アフリカの乾燥地域では熱風などの外気が入らないように開口部を小さくしているため、誤り。
	問6	スリランカは、多数派のシンハリ人が仏教徒であるため、③であるとわかる。①はパキスタン、ヒンドゥー教徒が1割弱存在する②はバングラデシュ、ヒンドゥー教徒が80%の④はネパールである。

第4問	問1	Dはスロベニアのカルスト地方であるため、石灰岩地形について言及のある③と判断できる。Aはスコットランドで④、Bはパリ盆地でケスタ地形について書かれている②、Cはポー川流域で、稲作がヒントとなり①と判断する。
	問2	①は「音楽の都」がヒントとなりLのウィーンであるとわかる。②は西ドイツ時代から経済の町として発展したデュッセルドルフである。③はドイツ、フランスとの間で度々国境の変化があった地域で、ストラスブールである。④は旧ユーゴスラビアの首都でベオグラードである。
	問3	まず、国土面積が小さく、集約的な園芸農業が発展するオランダや、デンマークで高位となっているアを1haあたりの農業生産額だと判断する。続いて、西ヨーロッパの先進国で高位となっているウは1人当たりの農業生産額、西ヨーロッパ向けに輸出が行われるために東ヨーロッパでも高位が見られるイは輸出入比であると判断できる。
	問4	まず、双方の失業率が高いカはギリシャ、スペインであるとわかる。逆にどちらも低いクはスイス、ノルウェーであるとわかる。残るキとケについては、北アフリカを中心として外国人の受け入れが多いフランスは外国人失業率が高いと推測し、キをフランス、オランダと判断する。教科書に掲載されていない知識を必要とする難問である。
	問5	サは東西で政治体制が異なっていた点からドイツと判断する。シの南部の製鉄所は、パノーニ計画に基づくタラントの製鉄所のことであるため、イタリアとわかる。スは北部の羊毛、南部の鉄鋼からベルギーとわかる。
	問6	EUの東欧圏への拡大により市場規模が拡大し、ヨーロッパ域外からの直接投資は増加しているため、誤り。消去法で判定することが容易である。
第5問	問1	①はカカオが誤り。そもそもカカオは乾燥地では栽培できない。②はB地域では夏に雨が多く、ブドウの栽培は難しいため、誤り。④はいずれの地域でもライ麦は栽培されていないため、誤り。ライ麦は東欧からロシアで主に栽培されている。
	問2	原油・天然ガスなど燃料輸出が多く、1人あたりGDPが高いロシアが④とわかる。圧倒的に工業製品割合の高い①は中国であるとわかる。残るブラジルとインドでは、1人あたりGDPで判断する。低い②がインドである。
	問3	アについては、すずの生産は中国、インドネシア、ペルー、ボリビアなど東南アジアや南米で多い。クロムは南アフリカ共和国で約40%を占め、インド合わせると50%を超える。ダイヤモンド研磨はベルギーや、イスラエル、インド、最近では中国などでも発展している。
	問4	インド、南アフリカ共和国ともにイギリスから独立しており、イギリス連邦加盟国である(南アフリカ共和国はアパルトヘイトを行っていた時期は脱退し、廃止されてマンデラ政権下で再加盟した)。どちらの国も貿易相手国としてイギリスは高い位置には来ていないので①は誤り。公用語については、南アフリカ共和国は英語を公用語の1つとしているが(他、アフリカーンス語、ズールー語)、インドはヒンディー語のみ(英語は準公用語)であるため、誤り。独立については、南アフリカ共和国は第二次世界大戦以前であるが、インドは以後の独立であるため、誤り。歴史的知識が必要となる難しい問題。
第6問	問5	④の正誤の判定は困難であるため、①～③の消去法で判断する。
	問1	地形図でエの方向から見ると、左側手前に山地が広がり、中央から右側に平野が広がるはずなので、①と判断する。胆沢川に沿って細長く小高い丘陵地が地形図中央部に突き出しているのがわかるが、①にも同様の形でそれが確認できる。
	問2	カは「領内を流れる川」から夏油川のことと判断でき、南部藩とわかる。溜池は南東部に目立つので、キは伊達藩とわかる。クは南部に整然と並ぶ針葉樹の地図記号で伊達藩であるとわかる。ケは同じような地割であるが植樹がない南部藩であるとわかる。
	問3	アーケード商店街が見られるスは駅前前の商店街と思われるため、Cと判断する。大きな道路沿いと思われるシは陸羽街道のBと判断する。
	問4	地域密着の伝統的な産業と思われる窯業・土石製品は1985年を最後に消えてしまったタであると判断する。1980年あたりから東北地方に、人件費の理由から進出した電気機械工業のことを考えれば、チが電気機械器具、ツが輸送用機械器具であるとわかる。北上市に隣接する金ヶ崎町には1990年代にトヨタ自動車の工場が進出している。
	問5	県庁所在地である盛岡市で高位となっているミは1km <sup>2</sup> あたり事業所数であると判断する。盛岡周辺の市町村で高位となっているマは通学・通勤であると考えられる。
問6	流線図は人や物資の移動量と移動方向を同時に示すことができる地図であるため、④の地図の作成には適さない。	